

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市上京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時
【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
【管理業務】 (1) 窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） (2) 施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） (3) 消防設備定期点検 (4) 開所・閉所時の安全点検
【サービス向上のための取組】 (1) 職員資質向上のための研修 (2) 老人福祉センター利用案内の作成 (3) 施設・備品の団体利用についての規則を明確化 (4) 苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 (5) 安全確保のための事故報告書等の事例共有
（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

(1) 高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数12名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
(2) 介護予防（実施回数1,006回、延参加者数15,414名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
(3) 高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（29同好会、実施回数607回、延参加者数7,963名） ボランティア活動への支援など（延参加者数346名） 上京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数655名）
(4) 教養講座（実施回数31回、延参加者数902名） 同志社大学や大谷大学と連携して新たな講座を実施し、教養面の向上と学生との交流を行う
(5) 地域交流事業 多世代交流事業（実施回数7回、延参加者921名） 共同事業（実施回数1回、延参加者数27名）
(6) 生きいきサロン（実施回数32回、延参加者数501名） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う
(7) 各種相談（相談件数11件）
(8) 一般娯楽（実施回数217回、延参加者数4,629名） すこやか歌の広場の開催を増回、定員を拡大したことで参加者数が前年度の約3.3倍に増加
(9) 各種広報紙の発行（約2,500部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
(10) その他 ・実習生受入れ（京都府立医科大学医学部看護学科52名、京都府医師会看護専門学校8名、京都中央看護保健大学校6名、京都保健衛生専門学校7名） ・上京区エコまちステーションの廃棄物集積場所の提供 ・上京老セン、上京デイ、上京児童館との合同消防訓練

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員2名 計4名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

37,692 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日, 閉所期間: 12月29日~1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況(単位: 円)

委託料	14,685,340
その他	288,825
収入計	14,974,165

イ 令和7年度支出状況(単位: 円)

人件費	10,389,026
事業費	4,139,054
委託費	808,090
小額修繕費	77,770
その他	
支出計	15,413,940

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 「認知症に見られるいろいろな症状には、実は理由があります！」
参加者の年齢・居住区・感想・要望などを知るために行った
【方法】選択方式と自由記述で実施
【設問数】5問
【回答数】37
- (2) 「スポーツボイス講座」
参加者の年齢・居住区・感想・要望などを知るために行った
【方法】選択方式と自由記述で実施
【設問数】5問
【回答数】29

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) の結果について
【選択方式から抜粋】
とても参考になった73%、少し参考になった22%、内容が物足りなかった2.5%、無回答2.5%
【自由記述から抜粋】
・認知症のついでの種類と対応を知ることができ大変有意義でした。
・やはり精神科の先生のお話だったので、わかりやすくよかったです。
・子供たちに聞かせたいです。
・老老介護なのでとても参考になりました。
・よい勉強になりました。ありがとうございました。
・また次回があればゆつくと。
- (2) の結果について
【選択方式から抜粋】
すごく良かった48%、良かった41%、普通7%、良くなかった4%
【自由記述から抜粋】
・ユニークな内容で楽しかったです。
・いつも楽しくさせてもらっています。
・誤嚥性肺炎の予防になりました。
・友人にも勧めます。
・大変効果を感じることができました。
・楽しく説明があって良かったと思います。
・80才すぎの者にはとてもきつかったです。
・ととても体が温まり、カラオケもしているので、とても役に立ちました。

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) アンケートの結果は長寿すこやかセンターと共有し、今後の講座の参考とする。
(2) アンケートの結果は第一興商と共有し、今後の講座の参考とする。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防と認知症予防に対処するため、新規の健康体操講座、近隣病院等による健康講座、音楽イベント「歌の広場」の月3回公演など、集客性の高い事業の積極的な展開を行った。また、新規利用者を歓迎するため、良質な接遇の実践、広報紙の発行部数と配架場所の拡大を行った結果、前年度と比べ、利用者が約18%（うち新規利用者が約77%）の増加につながった。

介護予防の取組として、医療機関の講師による認知症に関する講座を複数回実施、地域包括支援センターや上京区社会福祉協議会と連携して認知症サポーター養成講座を実施するなど、利用者への認知症の理解促進に努めた。教養講座事業では、大学と連携し新たな「スマホ出前講座」の実施、高齢者自主活動支援事業では、「上京英会話同好会」の結成に向けた説明会や連続講座を実施した。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市左京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

（1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）

（2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）

（3）消防設備定期点検

（4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

（1）職員資質向上のための研修

（2）老人福祉センター利用案内の作成

（3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化

（4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用

（5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数24名）

区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成

（2）介護予防（実施回数463回、延参加者数9,409名）

健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援

（3）高齢者自主活動支援

同好会活動の支援（40同好会、実施回数1,374回、延参加者数23,202名）

ボランティア活動への支援など（延参加者数2,309名）

左京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数381名）

（4）教養講座（実施回数17回、延参加者数486名）

生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応

（5）地域交流事業

多世代交流（実施回数8回、延参加者数238名）

共同事業（実施回数6回、延参加者数221名）

（6）生きいきサロン（実施回数47回、延参加者数769名）

虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として

実施し、レクリエーション等を行う。

（7）各種相談（相談件数58件）

（8）一般娯楽（実施回数102回、延参加者数3,343名）

いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施

（9）各種広報紙の発行（約1,600部/月）

施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知

（10）その他

・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校、佛教大学看護学科、京都中央看護保健大学校）

・下鴨警察署による交通安全教室、左京消防署による消防訓練の実施

・施設内外の清掃、花壇や池垣の環境整備等

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、契約職員1名、臨時職員1名 計4名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

40,869 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数：292日、閉所期間：12月29日～1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況 (単位：円)

委託料	35,794,749
その他	216,000
収入計	36,010,749

イ 令和7年度支出状況 (単位：円)

人件費	13,355,487
事業費	4,210,418
委託費	16,968,478
小額修繕費	0
その他	
支出計	34,534,383

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) フレイル予防講座「100歳まで歩くための秘訣」4/25実施
講座内容のご理解度調査、受講後の感想など、次年度に活かすためアンケートを実施した。
【方法】参加者に対し、選択方式と記述方式で実施。
【設問数】5問
【回答数】30

(2) スマホ体験講座4/30実施
講座受講のきっかけやスマホでやってみたいことのアンケートを実施した。
【方法】参加者に対し、選択方式で実施。
【設問数】7問
【回答数】16

(3) フレイル予防講座「高齢期に必要な栄養のお話」5/23実施
講座は参考になったか、自宅でやってみようと思う内容はあったかを伺うアンケートを実施した。
【方法】参加者に対し、選択方式と記述方式で実施。
【設問数】6問
【回答数】30

(4) 認知症サポーター養成講座 7/29実施
認知症について理解度やイメージの変化を伺うアンケートを実施した。
【方法】参加者に対し、選択方式と記述方式で実施。
【設問数】7問
【回答数】46

(5) 「ぼっけ」工作教室 12/13実施
工作を通じて児童と大学生との交流についての感想を伺うアンケートを実施した。
【方法】参加者に対し、選択方式と記述方式で実施。
【設問数】10問
【回答数】33

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) フレイル予防講座「100歳まで歩くための秘訣」アンケートの結果
- ①フレイル予防の取組み：運動33%、口腔25%、栄養23%、社会参加18%、その他1%
 - ②受講後自宅でもやってみようと思った：はい100%
 - ③内容は参考になったか？：大変参考になった81%、参考になった19%
 - ④受講後の自由記述
 - ・毎日実践したいと思います。
 - ・普段の姿勢が大切な事、気を付けます。
- (2) スマホ体験講座の結果
- ①携帯の利用期間：2年以上57%、半年未満15%、～2年15%、～1年半7%、～1年7%
 - ②スマホでやってみようと思ったこと：乗換案内29%、LINE18%、動画視聴18%、スマホ決済14%
- (3) フレイル予防講座「高齢期に必要な栄養のお話」アンケートの結果
- ①内容は参考になったか？：大変参考になった63%、参考になった37%
 - ②自宅でもやってみようと思う内容
 - ・よく噛んで食べる。がん予防や満腹感に繋がると教えてもらった。
 - ・現在は食事タイムは気ままな時刻。めりはりある時刻に3食摂るようにする。
- (4) 認知症サポーター養成講座 アンケートの結果
- ①認知症について今まで学ぶ機会があったか：なかった65%、あった28%
 - ②講座を受けて認知症について理解できたか：理解できた69%、よく理解できた22%
- (5) 「ぽけ」工作教室 アンケートの結果
- ①工作は難しかったですか：難しかった・とても難しかった43%、簡単だった・とても簡単だった30%
 - ②講座を知ったきっかけ：チラシ56%、その他41%（福祉会館、左京老福ニュース、先生に教えてもらった、高野じどうかんだより、左京老人福祉センターだより）

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) アンケート結果は京都市左京介護予防センターと共有し、今後の講座等に活かす。
- (2) アンケート結果は来年度も2回実施頂く講師と共有し、次年度に活かす。
- (3) アンケート結果は京都市左京介護予防センターと共有し、今後の講座等に活かす。
- (4) アンケート高野地域包括支援センター、小規模多機能ようせいの家、居宅介護支援洛和会医療介護サービスセンター東大路店、左京区社会福祉協議会、左京ケアプランセンター、左京認知症ネットワーク薬局・すこやか薬局と共有し、来年度の講座等に活かす。
- (5) アンケート結果は京都工芸繊維大学ものづくり教育普及プロジェクト「ぽけ」会員、高野児童館と共有し、次年度に活かす。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

認知症に対する取組として、「チームオレンジ*ブルーメ」「ロバ隊長のサロン」を充実した。また、本年度から「いきいきイストレーニング」「ゲームのつどい」（初心者麻雀）を実施し、認知症予防、生きがいづくり、仲間づくり、健康づくりを促進した。

介護予防の取組として、「公園体操in左京老セン」、左京区地域介護予防推進センターと連携し「コアバランスエクササイズ」「らくらくエアロビクス」等を実施した。教養講座事業では、「スマホ体験教室」、職員による「季節の折り紙講座」等を実施した。高齢者自主活動支援事業では、会員全員の利用者カードの更新等を達成した同好会が通常枠以外に施設利用ができる「利用者カードデー」事業を新たに創設した。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市山科中央老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数12名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 （2）介護予防（実施回数168回、延参加者数3,975名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（37同好会、実施回数830回、延参加者数15,067名） ボランティア活動への支援など（延参加者数823名） 山科区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数176名） （4）教養講座（実施回数118回、延参加者数2,711名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業 多世代交流（実施回数18回、延参加者数1,498名） 共同事業（実施回数2回、延参加者数29名） （6）生きいきサロン（実施回数46回、延参加者数875名） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。 （7）各種相談（相談件数3件） （8）一般娯楽（実施回数355回、延参加者数4,139名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施 （9）各種広報紙の発行（約1,100部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （10）その他 ・合築施設の3者合同での防火避難訓練の実施 ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校5名、京都保健衛生専門学校7名、 佛光大学保健医療技術学部看護学科15名、京都翔英高等学校看護科4名） ・集会室のカーテン取替等の環境整備。

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

29,776 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 293日, 閉所期間: 12月29日~1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況(単位: 円)

委託料	14,947,244
その他	161,615
収入計	15,108,859

イ 令和7年度支出状況(単位: 円)

人件費	10,473,325
事業費	3,867,006
委託費	738,643
小額修繕費	47,950
その他	
支出計	15,126,924

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 認知症サポーター養成講座～認知症の人とともに～
令和8年1月31日(土)開催
認知症における社会的背景、認知症への理解、支援について講義を受け、その後に受講アンケートを実施。
【方法】参加者に対して選択式と記述式で実施
【設問数】4問
【回答数】15人(男性0人、女性14人、未回答1人)
【年齢別】60歳代2人、70歳代8人、80歳代5人

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) 認知症サポーター養成講座アンケートの結果
- ①認知症を学ぶ機会: あった5人、なかった10人
 - ②受講後の認知症への理解: 理解できた12人、理解できなかった1人、未回答2人
 - ③受講後の認知症へのイメージ: 変わった11人、変わらない2人、未回答2人
 - ④受講後の自由記述
 - ・みんなに起こること。恥ではない。
 - ・認知症は脳の病気
 - ・認知症の人の立場でサポートすることが大切
 - ・もっと認知症について学んでおけば良かった。もっと学びたい、勉強しないと感じた。
 - ・グループトークで皆さんの不安もわかって良かった。

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケートの結果は高齢サポート・勸修と共有し、連携のうえ、この講座は続けていかなければならないものだと考え、次年度も開催を予定している。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

認知症サポーター養成講座の実施などにより、卓球のつどいで認知症の人を快く受け入れるなど、利用者の認知症への理解が広がった。介護予防の取組として、山科区地域介護予防推進センターや運動療法士と連携した「楽しい健康体操講座」「体力アップ講座」等を実施した。講師による「じっくり学ぶ筋トレ講座」や、ボランティアによる「フレイル予防体操講座」等を実施、生涯現役社会の実現を目指して同好会が活動しやすい環境づくりを図ることができた。また、関係機関等との連携による成年後見制度の理解を深める「成年後見講座」を山科老人福祉センターと共同事業として実施した。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市下京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 (1) 窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） (2) 施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） (3) 消防設備定期点検 (4) 開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 (1) 職員資質向上のための研修 (2) 老人福祉センター利用案内の作成 (3) 施設・備品の団体利用についての規則を明確化 (4) 苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 (5) 安全確保のための事故報告書等の事例共有 (参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

(1) 高齢者支え合い活動入門講座（実施回数6回、延参加者数144名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 (2) 介護予防（実施回数195回、延参加者数4,612名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 (3) 高齢者自主活動支 同好会活動の支援（33同好会、実施回数670回、延参加者数9,424名） ボランティア活動への支援など（延参加者数1,335名） 下京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者2,049名） (4) 教養講座（実施回数86回、延参加者数1,263名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 (5) 地域交流事業 多世代交流事業（実施回数1回、延参加者数31名） 共同事業（実施回数6回、延参加者数144名） (6) 生きいきサロン（実施回数46回、延参加者数763） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として 実施し、レクリエーション等を行う。 (7) 各種相談（相談件数17件） (8) 一般娯楽（実施回数76回、延参加者数2,522名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施 (9) 各種広報紙の発行（約1,000部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 (10) その他 ・合築施設の3者合同での防火避難訓練の実施 ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校4名、佛教大学看護学科16名、 京都中央看護保健大学校10名、近畿高等看護専門学校2名、京都ビューティー専門学校 14名） ・LINE公式アカウントによる講座・つどいについての情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

28,992 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数：292日、閉所期間：12月29日～1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況 (単位：円)

委託料	14,580,579
その他	294,455
収入計	14,875,034

イ 令和7年度支出状況 (単位：円)

人件費	10,980,118
事業費	4,344,755
委託費	158,900
小額修繕費	115,165
その他	
支出計	15,598,938

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 「脳の健康セミナー」～読み書き計算が脳を鍛える！～
認知症予防や受講後の感想など、次年度に活かすためアンケートを実施した。
【方法】参加者に対し、選択方式と記述方式で実施。
【設問数】4問
【回答数】24

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) 「脳の健康セミナー」～読み書き計算が脳を鍛える！アンケート結果
年代-60代 2、70代 13、80代 9
①満足度：非常に満足 12、満足 6、まあ満足 1、無回答 5
②認知症予防のために日常で取り組んでいること：
人との関わり、体を動かす等
③継続希望：ぜひ参加したい 9、興味あり 11、その他 1、無回答 3
④感想：
・友人知人に紹介した
・頑張ろうという気持ちになった

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は今後の講座に活かす。

7 評価 (指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、下京区地域介護予防推進センターと連携した「いきいき健康クラブ」は、認知症予防に繋がる脳トレと転倒予防を中心とした運動を行った。人気のある「練功十八法のつどい」「椅子に座ってヨガ講座」等は、会場整備を行い多数の利用者が参加できた。教養講座では、デジタル・デバイドの解消のため「スマホ使い方交流会」の実施、「編物講座」「手芸講座」「歴史を楽しむ会」等、利用者のニーズに応じた講座等を実施した。一般娯楽事業では、人気のある歌唱講座「歌ごえ広場」等を実施し、利用者の増加につながった。

センターの広報について、昨年度から実施したLINE配信による講座等の広報を行った結果、LINE登録者数が前年度比231%の増加となった。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市右京中央老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検
- 【サービス向上のための取組】
- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数24名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数147回、延参加者数6,438名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（37同好会、実施回数856回、延参加者数11,954名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数3,044名）
右京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数646名）
- （4）教養講座（実施回数51回、延参加者数1,137名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業 未実施
共同事業（実施回数1回、延参加者数37名）
- （6）生きいきサロン（実施回数34回、延参加者数413名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
- （7）各種相談（相談件数3件）
- （8）一般娯楽（実施回数439回、延参加者数7,964名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- （9）各種広報紙の発行（約1,200部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （10）その他
 - ・合築施設合同消防避難訓練
 - ・実習生の受入れ（佛教大学看護学科、京都中央看護保健大学校、近畿高等看護専門学校、翔英高等学校看護科、京都府医師会看護専門課程看護科）

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 3名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

32,575 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日, 閉所期間: 12月29日~1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況(単位: 円)

委託料	14,947,244
その他	256,875
収入計	15,204,119

イ 令和7年度支出状況(単位: 円)

人件費	10,776,813
事業費	4,254,365
委託費	747,186
小額修繕費	0
その他	
支出計	15,778,364

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 『声出し健康レッスン』講座 (講師より依頼あり)
参加者の満足度や要望を把握し、今後に活かすため実施。
【設問数】4問
【回答数】26
- (2) 『認知症サポーター養成講座』
認知症について学ぶ機会や理解、受講後の感想など次年度に活かすため実施。
【設問数】4問
【回答数】27

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) 『声出し健康レッスン』
- ① 講座は楽しかったですか? とても楽しかった 23、まあまあ 2
 - ② 講座は今後の役に立ちそうですか? とても役に立つ 24、少しは役に立つ 1
 - ③ また参加したいですか? 参加したい 26
 - ④ その他、何か良かったことあれば。
 - ・ 声を出す機会が少なくなり、本日のような機会をいただきありがとうございます。
 - ・ 先生の発音が良く分かりやすい。
 - ・ 明るい素敵な先生で楽しかった。
 - ・ わかりやすく、頭がすっきりした。
 - ・ 回数を増やしてほしい
- (2) 『認知症サポーター養成講座』
- ① 認知症を学ぶ機会: あった 13、なかった 14
 - ② 受講後の認知症の理解: よくできた 4、できた 23
 - ③ 受講後の認知症のイメージ: 大変変わった 3、変わった 16、変わらない 8
 - ④ 自由記述
 - ・ 若い人にも受講してほしい
 - ・ 声の掛け方やポイントがわかった
 - ・ 当事者が一番困っている
 - ・ 身近な問題と捉えたい
 - ・ 他人ごとでない
 - ・ 受講したからと急にできることではない
 - ・ 認知症にも種類がある

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) (2) のアンケート結果は、講座講師と常盤野地域包括支援センターと共有し、今後の講座運営、認知症サポーター養成講座にも活かせたらと考える。

7 評価(指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、右京区地域介護予防推進センターによる「ころばん体操」「やさしい体操」「栄養講座」実施の他、体力測定会を実施するなど利用者の健康に対する意識向上に努めた。高齢者自主活動支援事業として、舞台発表会の運営委員会等を開き、円滑に実施することができた。また、教養講座では講師による「たのしい手芸講座」等、右京消防署による「家庭での防火・地震対策」、地元太秦に関係する講座を4年連続して実施した。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市西京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）

- （3）消防設備定期点検

- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修

- （2）老人福祉センター利用案内の作成

- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化

- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用

- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数4名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数721回、延参加者数8,648名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（43同好会、実施回数824回、延参加者数8,989名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数3,899名）
西京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者343名）
- （4）教養講座（実施回数43回、延参加者数1,031名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流事業（実施回数5回、延参加者数922名）
共同事業（実施回数3回、延参加者数359名）
- （6）生きいきサロン（実施回数42回、延参加者数814名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
- （7）各種相談（相談件数20件）
- （8）一般娯楽（実施回数442回、延参加者数4,667名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- （9）各種広報紙の発行（約1,800部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （10）その他
 - ・合築施設の防災訓練
 - ・学習支援（37回）
 - ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校5名、京都保健衛生専門学校7名、翔英高等学校看護科2名）
 - ・西京警察署特殊詐欺防止啓発活動（5回）
 - ・日常生活自立支援事業について、西京区社協から金庫及び通帳預かり業務を受託し協力
 - ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員2名 計4名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

31,121 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 285日, 閉所期間: 12月29日~1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況(単位: 円)

委託料	14,947,244
その他	278,975
収入計	15,226,219

イ 令和7年度支出状況(単位: 円)

人件費	10,310,392
事業費	4,138,805
委託費	712,630
小額修繕費	29,150
その他	
支出計	15,190,977

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 認知症サポーター養成講座

認知症について学ぶ機会や理解、受講後の感想など、次年度に活かすためアンケートを実施した。

【方法】参加者に対し、選択方式と記述方式で実施。

【設問数】5問

【回答数】30

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) 認知症サポーター養成講座アンケートの結果

- ①受講後の認知症の理解: 十分できた 6、できた 23、あまり 1
- ②認知症の方への接し方の理解: 十分できた 3、できた 25、あまり 2
- ③老センで認知症の方に対する取組みについての必要性: 大いに必要 12、必要 16、あまり必要に思わない 2
- ④今後、認知症の方があなたの同好会へ参加する場合、あなたはどのような(お手伝い)ができると思いますか
 - ・認知症の方の話を良く聞いてあげる。理解できるように努力する
 - ・本人にもプライドがあると思うし、さりげなくできる範囲で声かけする
 - ・ご本人意向を考えて、対応していきたいです。本人に居心地のよい対応、その人によって違うと思うので話し合いを中心に親しくなることが大事だと思います
 - ・理解の度合いを見て、ゆっくり対応する
 - ・家まで迎えに行き同好会に参加
 - ・まめに連絡をとる 出来る限りの援助をしたい
- ⑤今回の講座についてご意見・ご感想があればお書きください
 - ・認知症を知るうえで参考になりました
 - ・また機会があれば参加したいと思う。どうしてもイライラしたり待てなかったり気持ちが狭いから大きな心で接することが大切なのですね
 - ・より理解できるようにお話に参加したく思いました。

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は西京デイサービスセンターと共有し、今後の認知症サポーター養成講座に活かす。

7 評価(指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、定例の西京医師会による「すこやか講座」や西京区地域介護予防推進センターによる「のんびり体操」「筋トレ教室」の他、西京竹エクササイズサポーターによる「竹エクササイズ教室」など新規講座も実施した。高齢者自主活動支援事業では、同好会世話人会を通じて誰もが気持ちよく利用できるよう働きかけるとともに、新規同好会の立ち上げの相談に応ずるなど、高齢化が進む同好会活動への支援に努めた。教養講座では、西京警察署による「特殊詐欺にあわない講座」や「交通安全講座」、職員による「認知症サポーター養成講座」などを実施した。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市洛西老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時
【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
【管理業務】 (1) 窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） (2) 施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） (3) 消防設備定期点検 (4) 開所・閉所時の安全点検
【サービス向上のための取組】 (1) 職員資質向上のための研修 (2) 老人福祉センター利用案内の作成 (3) 施設・備品の団体利用についての規則を明確化 (4) 苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 (5) 安全確保のための事故報告書等の事例共有
（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

(1) 高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数22名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
(2) 介護予防（実施回数366回、延参加者数5,863名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
(3) 高齢者自主活動支 同好会活動の支援（63同好会、実施回数1,435回、延参加者数19,616名） ボランティア活動への支援など（延参加者数3,443名） 伏見区老人クラブ連合会等への支援（延参加者418名）
(4) 教養講座（実施回数17回、延参加者数304名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
(5) 地域交流事業 多世代交流事業（実施回数7回、延参加者数166名）
(6) 生きいきサロン（実施回数46回、延参加者数705名） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
(7) 各種相談（相談件数15件）
(8) 一般娯楽（実施回数257回、延参加者数4,243名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
(9) 各種広報紙の発行（約1,500部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
(10) その他 ・消防避難訓練（利用者参加） ・普通救命講習会 ・実習生の受入れ（京都中央看護保健大学校、京都府医師会看護専門学校学生） ・地域団体等の作品展示 ・アルミ缶・プルトップ収集協力 ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

40,093 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日, 閉所期間: 12月29日~1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況(単位: 円)

委託料	29,978,915
その他	335,185
収入計	30,314,100

イ 令和7年度支出状況(単位: 円)

人件費	11,218,631
事業費	19,565,243
委託費	396,241
小額修繕費	0
その他	
支出計	31,180,115

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 「やさしい筋トレ」参加者アンケート

参加者の感想・要望等を聞き取り、今後の事業運営の参考にするために実施した。

【方法】年度末に参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。

【設問数】7問

【回答数】40

(2) 「健康講座」参加者アンケート

年間5回実施。各回のテーマ ①骨を鍛える ②認知症 ③目 ④皮膚 ⑤骨の薬

参加者の参加動機と感想・要望等を聞き取り、今後の事業運営の参考にするために実施した。

【方法】講座終了後に参加者に対し、自由記述方式で実施。

【設問数】自由記述のみ1問

【回答数】①34 ②35 ③31 ④29 ⑤19

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) 「やさしい筋トレ」参加者アンケートの結果(複数選択可の設問あり。単位: 人)

- 参加について
 - ・初めて 8 ・初めてではない 32
- 参加して役立ったこと
 - ・筋力が鍛えられた 24 ・体調がよくなった 24
 - ・方法の理解 35 ・交流が楽しい13 ・その他 6
- よかったメニュー
 - ・筋トレ 30 ・ストレッチ 25 ・脳トレ12
- きつさ
 - ・きつい 1 ・ちょうどよい 25 ・物足りない 7 ・無回答 7
- マット使用
 - ・よい 21 ・椅子がよい 5 ・どちらでもよい 7 ・無回答 7
- 自宅での実施
 - ・週1~2回 17 ・月1~2回 2 ・時々 14 ・していない 0
- 実施時間
 - ・もっと短く 0 ・ちょうどよい 28 ・もっと長く 5 ・無回答 7
- 自由記述
 - ・楽しい。わかりやすい。ありがとうございます。等の感想が多数。
 - ・先生により指導方法が重なる場合があるという意見もあった。

(2) 「健康講座」参加者アンケートの結果(主な内容のみ記載)

- ①骨を鍛える
 - ・改めて骨の大切なこと、骨密度のことを聞き、これからの生活の参考にしたい。
 - ・骨密度の検査を早急に受けようと思いました。
- ②認知症
 - ・認知症は食事、運動、睡眠が大事なことがわかりました。
 - ・認知症が生活習慣病で、予防できることがわかり、気をつけたいと思いました。
- ③目
 - ・白内障になっていたので勉強になりました。
 - ・目は大事な体の一部なのでもっと大事にケアしなくてはと思った。
- ④皮膚
 - ・毎日保湿するように心がけて皮膚のかゆみをなくすようにします。
 - ・石鹸の使い過ぎには注意の話は、勉強になりました。
- ⑤骨の薬
 - ・骨粗しょう症について詳しい話が聞けてよかったです。
 - ・皆さんからいろいろと質問が出て、聞きたかった話が聞けてよかったです。

(3) 意見等への主な対応状況

- | |
|--|
| (1) アンケートの結果は筋トレ西ネットと共有し、次年度の事業の参考とする。
(2) アンケートの結果は西京医師会と共有し、次年度の事業の参考とする。 |
|--|

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。 介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。 収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。 知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。 同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。 事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。 障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。 介護予防の取組として、筋トレ西ネットによる「やさしい筋トレ」、西京医師会による「健康講座」、西京区地域介護予防推進センターと連携した「椅子に座ってリズム体操」等を実施した。高齢者自主活動支援事業では、本年度から自主的運営となった健康麻雀同好会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの活動を丁寧支援した。教養講座では、講師による「スマホ使い方講習会」、西京消防署による「普通救命講習会」、地域包括支援センターによる「認知症サポーター養成講座」等を実施した。また、「楽朗演芸団」や「洛朗文化会」の活動や知恵シルバーセンター事業と連携した地域における社会貢献活動等を実施した。
--

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市伏見老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- (1) 窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
 - (2) 施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
 - (3) 消防設備定期点検
 - (4) 開所・閉所時の安全点検
- ### 【サービス向上のための取組】
- (1) 職員資質向上のための研修
 - (2) 老人福祉センター利用案内の作成
 - (3) 施設・備品の団体利用についての規則を明確化
 - (4) 苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
 - (5) 安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- (1) 高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数18名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- (2) 介護予防（実施回数373回、延参加者数5,872名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- (3) 高齢者自主活動支
同好会活動の支援（33同好会、実施回数846回、延参加者数14,506名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数0名）
伏見区老人クラブ連合会等への支援（延参加者233名）
- (4) 教養講座（実施回数43回、延参加者数634名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- (5) 地域交流事業
多世代交流事業（実施回数1回、延参加者数23名）
- (6) 生きいきサロン（実施回数46回、延参加者数535名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
- (7) 各種相談（相談件数5件）
- (8) 一般娯楽（実施回数112回、延参加者数1,885名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- (9) 各種広報紙の発行（約1,200部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- (10) その他
 - ・合築施設防火避難訓練
 - ・シェイクアウト訓練
 - ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校老年看護学実習生5名）
 - ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

28,281 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日, 閉所期間: 12月29日~1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況(単位: 円)

委託料	14,580,579
その他	275,000
収入計	14,855,579

イ 令和7年度支出状況(単位: 円)

人件費	10,208,592
事業費	4,008,659
委託費	161,420
小額修繕費	11,000
その他	
支出計	14,389,671

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 「脳トレ」アンケート
(2) 「みんなの歌声ひろば」アンケート

事業の感想と要望を知り、次年度事業に活かすためアンケートを行った。

【方法】 参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。

【設問1】 ・非常に良かった ・良かった ・普通 ・あまり良くなかった ・良くなかった ・無回答

【設問2】 講座の感想、意見

【設問3】 今後の講座の希望

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) 「脳トレ」 参加者30名(非常に良かった5名、良かった21名、普通4名)

- (2) 「みんなの歌声ひろば」 参加者 50名(非常に良かった20名、良かった 21名、普通9名)

※あまり良くなかった 全て 0名
良くなかった 全て 0名

(3) 意見等への主な対応状況

- ほとんどが、また企画してほしいとの好感的な意見であった。
- アンケート結果は各講師と共有し、今年度の事業の参考とする。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、いきいき筋トレボランティアによる「いきいき筋トレ」、伏見区地域介護予防推進センターと連携した「ファイン体操教室」「みんなのヘルスケア講座」、講師による「100歳生きいき講座」、ボランティアによる「脳トレプリントの時間」、職員による「ココから体操」を実施した。また、生涯現役社会に向けて、高齢者を受け手としてだけでなく、担い手として捉え、高齢者自らがグループ又は個人で社会参加活動に取り組めるよう、伏見区社会福祉協議会と連携し、地域支え合い活動入門講座などを通じて積極的に取り組んだ。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市醍醐老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- (1) 窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- (2) 施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- (3) 消防設備定期点検
- (4) 開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- (1) 職員資質向上のための研修
- (2) 老人福祉センター利用案内の作成
- (3) 施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- (4) 苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- (5) 安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- (1) 高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数28名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- (2) 介護予防（実施回数295回、延参加者数5,589名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- (3) 高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（45同好会、実施回数1,352回、延参加者数24,997名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数1,478名）
伏見区老人クラブ連合会等への支援（延参加者94名）
- (4) 教養講座（実施回数28回、延参加者数1,150名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- (5) 地域交流事業
多世代交流事業（実施回数1回、延参加者数10名）
- (6) 生きいきサロン（実施回数47回、延参加者数1,041名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
- (7) 各種相談（相談件数53件）
- (8) 一般娯楽（実施回数547回、延参加者数12,022名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- (9) 各種広報紙の発行（約1,500部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- (10) その他
 - ・合築施設防火避難訓練
 - ・実習生の受入れ（佛教大学、京都府医師会看護専門学校、京都中央看護保健大学校 翔英高等学校）
 - ・チャレンジ就労支援事業の受入れ
 - ・LINE公式アカウントによる情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

49,115 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 292日, 閉所期間 : 12月29日～1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況 (単位: 円)

委託料	18,811,241
その他	358,292
収入計	19,169,533

イ 令和7年度支出状況 (単位: 円)

人件費	10,458,687
事業費	3,925,319
委託費	2,790,739
小額修繕費	143,800
その他	
支出計	17,318,545

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 認知症サポーター養成講座
講座を通じて認知症の正しい理解にどうつながっているか確認し、今後の内容の検討・改善等に活かすためアンケートを行った。
【方法】講座参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
【設問数】4問
【回答数】14

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) 認知症サポーター養成講座アンケートの結果

【性別】 男性2名、女性12名

【年齢】 20歳代1名、70歳代7名、80歳代7名

- ① 認知症について学ぶ機会があったか：あった8名、なかった5名、その他1名
- ② 講座を受けて認知症を理解できたか：よく理解できた5名、理解できた8名、無回答1名
- ③ 認知症のイメージは変わったか：大きく変わった2名、変わった11名、無回答1名

→その理由：

- ・誰もが直面する時がくる。毎日元気で生活できることに感謝します。
- ・姉がアルツハイマー型認知症です、今のところサポートを受け生活しています。
- ・関わった事が今までなく、イメージができなかった、普通の人と変わらないと思えた。
- ・丹野さんのドキュメンタリーや本を読んで理解していたつもりでしたが、今日の話を聞いて改めて理解し直しました。
- ・夫婦とも高齢になり、もの忘れがあったり、行き違いがあったりで、そのとおりだと思いました。
- ・ひとり一人の配慮が必要。
- ・認知機能障害と認知症の症状(特にBPSD)の違いをよく理解しなくてはならないと思いました、混ざってしまっていた部分があったので。

④ 講座を受けて感じたことや、印象に残ったことなど

- ・年だと思わず、目の前に何かあるとお世話をしたいと思う、生きている限り元気でいたいと思います、でもよく何でも忘れやすいものです。
- ・優しく話し合うことが大事です、愛情深く話し合うことが大事です。
- ・人との接し方は優しく、その人の身になって対応する。
- ・講座を受けて、一步素直に前に進んで生活していけます。
- ・同じことを何度も何度も言われると、優しくなれないことが悩みです、同じ人間ではないのですね。
- ・イライラしそうになりそうだが、優しい対応が肝心だと思いました。
- ・いろいろな支援センターがあることを知り、少し安心しました、認知症の方の話を優しく受け答えすることを学びました、ビデオを見て明るく生活されているのを見て感動しました。
- ・先日ストレス性かと思いますが、主人にせん妄らしきことがあり、話を聞けて良かったと思いました。
- ・支援制度を知ったこと、認知症を正しく知ることができた。

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は、地域包括支援センター、デイサービスセンター、区社協等関係機関と共有し、次回の講座内容について参考に検討・実施する。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、いきいき筋トレボランティアによる「いきいき筋トレ」、深草・醍醐地域介護予防推進センターによる「認知症予防教室」「体操教室」「認知症サポーター養成講座」等を実施した。その他講師やボランティアによる「スカイクロス」「ステッププラス」等、職員による「てづくりサロン」を実施した。教養講座では、「うたごえサロン」「ハーモニカ講座」等、趣味を深める内容から、山科警察署による「シニアの安全運転講座」「自転車の交通ルール講習会」など、生活に直接係る内容まで様々な講座を実施した。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市北老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検
- 【サービス向上のための取組】
- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数8回、延参加者数67名）
区社会福祉協議会、包括支援センター等関係機関と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数208回、延参加者数5,479名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（38同好会、実施回数822回、延参加者数9,327名）
実行委員会を開催し、舞台発表会、作品展に向けて自主的・主体的な活動への支援
新しく地域のサークル活動を同好会として受入
ボランティア活動への支援など（延参加者数868名）
老人会等地域の高齢者への支援（延参加者数892名）
- （4）教養講座（実施回数39回、延参加者数1,023名）
看護師による講座実施等、高齢者の生活改善
認知症講座実施等認知症への理解を深めた
- （5）地域交流事業
多世代交流事業（実施回数6回、延参加者数205名）
共同事業（実施回数2回、延参加者数61名）
- （6）各種相談（相談件数63件）
- （7）一般娯楽（実施回数564回、延参加者数6,480名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁など）スケジュールを工夫
大人のぬり絵等参加者増加講座については、多くの方が参加できるように工夫
- （8）各種広報紙の発行（約1,500部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （9）その他
 - ・消防署指導による合築施設合同避難訓練
 - ・合築施設共有部分等、各階と連携、協力
 - ・実習生の受入（地域包括支援センター、地域介護予防推進センター、近畿高等看護専門学校）
 - ・園芸ボランティア協働による共有部分の園芸作業を実施

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、契約職員1名、
臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。
一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

28,398 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日, 閉所期間: 12月29日~1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況(単位: 円)

委託料	10,790,066
その他	225,510
収入計	11,015,576

イ 令和7年度支出状況(単位: 円)

人件費	8,483,856
事業費	2,270,148
委託費	76,560
小額修繕費	47,300
その他	
支出計	10,877,864

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) つながるサロン6月「デイサービスって」
つながるサロンの運営と向上、次年度に活かすため、アンケートを実施した。
【方法】参加者に対し、選択方式と記述方式で実施。
【設問数】4問
【回答数】18
- (2) つながるサロン9月「栄養と献立」
つながるサロンの運営と向上、次年度に活かすため、アンケートを実施した。
【方法】参加者に対し、選択方式と記述方式で実施。
【設問数】4問
【回答数】24

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) つながるサロン6月「デイサービスって」アンケート結果
①参加の理由(複数回答可): 専門家の話が聞きたかった13、テーマに関心があった12、日常に役立つと思った7、知り合いに誘われた0、その他1
②話の内容: とても良かった11、よかった7、ふつう0、やや不満0、不満0
③サロンを知った方法: 老セン広報紙13、チラシ・ポスター2、市民しんぶん1、ホームページ1、知人に誘われた0、その他0
④今後希望するテーマ、その他ご意見: 認知症のことを知りたい。テーマを決めて雑談する会、健康・食に関するセミナー
- (2) つながるサロン9月「栄養と献立」
①参加の理由(複数回答可): 専門家の話が聞きたかった12、テーマに関心があった16、日常に役立つと思った18、知り合いに誘われた0、その他1
②話の内容はどうだったか: とても良かった9、よかった11、ふつう4、やや不満0、不満0
③サロンを知った方法: 老セン広報紙17、チラシ・ポスター1、市民しんぶん1、ホームページ1、知人に誘われた3、その他3
④今後希望するテーマ、その他ご意見: 有意義な時間でした。今回のような機会を作ってください、高齢者同志が話す機会を与えて下さったことはとても良く、色々な人の不安を聞くことが出来た。

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) アンケートの結果は、つながるサロンを協力機関と共有し、次年度計画会議の資料として活用した。

7 評価(指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、「つながるサロン」の一環で、北区地域介護予防推進センターと連携・協働して「体力測定会」「栄養と献立」など健康、栄養などの介護予防に関する事業を実施した。高齢者自主活動支援事業では、作品展、発表会の実施、委員会を設け自発的な成果発表となり、同好会会員の増加につながった。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市中京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時
【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
【管理業務】 (1) 窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） (2) 施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） (3) 消防設備定期点検 (4) 開所・閉所時の安全点検
【サービス向上のための取組】 (1) 職員資質向上のための研修 (2) 老人福祉センター利用案内の作成 (3) 施設・備品の団体利用についての規則を明確化 (4) 苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 (5) 安全確保のための事故報告書等の事例共有
【参考】今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

(1) 高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数34名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
(2) 介護予防（実施回数316回、延参加者数5,037名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
(3) 高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（24同好会、実施回数605回、延参加者数9,035名） ボランティア活動への支援など（延参加者数135名） 中京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数21名）
(4) 教養講座（実施回数47回、延参加者数1,111名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
(5) 地域交流事業 多世代交流（実施回数22回、延参加者数665名）
(6) 各種相談（相談件数20件）
(7) 一般娯楽（実施回数480回、延参加者数9,467名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋・卓球など）を実施
(8) 各種広報紙の発行（約1,200部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
(9) その他 ・防火講座、防災訓練の実施 ・実習生受入れ（京都保健衛生専門学校、近畿高等専門学校） ・LINEアカウントによる情報発信 ・リユース伝言板の活用（マッチング19件）

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、契約職員1名 臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

31,732 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日, 閉所期間: 12月29日~1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況(単位: 円)

委託料	10,798,447
その他	223,330
収入計	11,021,777

イ 令和7年度支出状況(単位: 円)

人件費	8,254,624
事業費	2,950,071
委託費	240,436
小額修繕費	14,000
その他	
支出計	11,459,131

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(11) 成年後見講座

参加者の感想や要望を知り、内容の充実を図るためアンケートを行った。

【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述

【設問数】4問

【回答数】24

(12) 京ことばでお口と声のトレーニング

参加者の感想や要望を知り、内容の充実を図るためアンケートを行った。

【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述

【設問数】4問

【回答数】18

(13) シニアのための防災減災

参加者の感想や要望を知り、内容の充実を図るためアンケートを行った。

【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述

【設問数】4問

【回答数】23

(14) 認知症サポーター養成講座

認知症について学ぶ機会や理解、受講後の感想など、内容の充実を図るためアンケートを行った。

【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述

【設問数】4問

【回答数】18

(2) 利用者満足度把握の結果

設問 ①講座を何でお知りになりましたか ②内容はいかがでしたか ③今後も参加したいですか

(11) 成年後見講座アンケート結果

①広報紙45.8% センターポスター29.2% ライン33.3%

②参考になった66.7% 少し難しかった25.0% その他4.2% 無回答4.2%

③そう思う50.0% どちらかというと思う25.0% どちらかというと思わない16.7%

思わない4.2% 無回答4.2%

(12) 京ことばでお口と声のトレーニングアンケート結果

①広報紙55.6% センターポスター44.4%

②楽しかった72.2% 参考になった27.8%

③そう思う77.8% どちらかというと思う16.7% 無回答5.6%

(13) シニアのための防災減災アンケート結果

①広報紙47.8% センターポスター30.4% ライン13.0% その他8.7%

②楽しかった26.1% 参考になった69.6% 無回答4.3%

③そう思う91.3% どちらかというと思う8.7%

(14) 認知症サポーター養成講座アンケート結果

①認知症を学ぶ機会: あった8 なかった9 無回答1

②受講後の認知症の理解: よく理解できた1 理解できた9 無回答1

③受講後の認知症のイメージ: 大きく変わった1 変わった8 変わらない5 無回答1

④自由記述

・気分が少し楽になった

・とても良かったと思います。

(3) 意見等への主な対応状況

アンケート結果を共有し、今後の事業において、内容充実に活かす。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取り組みとして、中京介護予防推進センター、筋トレボランティアと共に健康長寿の事業を進め介護予防への関心を高め、多様な健康づくりの機会を提供した。また、地域支え合い活動入門講座を開催し、地域ボランティア活動の紹介やライトハウスへの活動参加につなげた。高齢者自主活動支援事業では、「よし笛サークル」が健康長寿のまち・京都市いきいきアワード2025奨励賞を受賞した。

その他、隣接施設（朱一保育園、京都市聴覚言語障害センター「虹」）と連携し、卓球バレー交流や京都府警音楽隊・カラーガード隊の催しなど多世代交流も促進した。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市東山老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

（1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）

（2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）

（3）消防設備定期点検

（4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

（1）職員資質向上のための研修

（2）老人福祉センター利用案内の作成

（3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化

（4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用

（5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数21名）

区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成

（2）介護予防（実施回数273回、延参加者数3,624名）

健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援

（3）高齢者自主活動支援

同好会活動の支援（22同好会、実施回数615回、延参加者数6,216名）

ボランティア活動への支援など（延参加者数609名）

東山区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数1,255名）

（4）教養講座（実施回数40回、延参加者数701名）

生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応

（5）地域交流事業

多世代交流（実施回数2回、延参加者数50名）

（6）各種相談（相談件数50件）

（7）一般娯楽（実施回数1,040回、延参加者数5,369名）

いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋・卓球など）を実施

（8）各種広報紙の発行（約700部/月）

施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知

（9）その他

・消防計画に基づき、防災設備点検の実施

・東山消防署による交通安全及び特殊詐欺対策普及啓発

・山口県周南市立太華中学校3年生による施設視察の受入

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、契約職員1名

臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

20,612 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日, 閉所期間: 12月29日~1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況(単位: 円)

委託料	9,091,709
その他	220,000
収入計	9,311,709

イ 令和7年度支出状況(単位: 円)

人件費	8,130,444
事業費	1,762,869
委託費	112,098
小額修繕費	78,100
その他	
支出計	10,083,511

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 令和6年度東山老人福祉センター同好会発表会・作品展来場者アンケート
今年度の参加者の状況を知ることにより来年度以降の開催の参考にするためアンケート調査を実施した。

【調査数】5問

【回答者数】35人

- (2) 令和7年に向けた健康増進教室・男塾アンケート

7年度実施にあたり、現状維持か変更すべきなのかを利用者にアンケートを行った。

【調査数】3問

【回答者数】27人

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) 同好会発表会・作品展来場者アンケートの結果

①年齢 80代 20人 70代 11人 60代 1人 60歳未満 3人

②性別 男5人 女30人

③住所 東山区 27人 山科区 2人 北区1名 左京1名 中京区1名 下京1名 記入なし1名

④来場のきっかけ 友人や家族の発表を見るため11名 広報紙7名 友人、知人に誘われた3名

前から気になっていた3名 その他等13名

⑤発表会・作品展いかがでしたか 良かった30名 ふつう5名

- (2) 健康増進教室・男塾アンケートの結果

①クラス分け 健康増進教室は女性限定がいい13名 6年度のまゝ8名 どちらでもいい6名

②運動の強度 ちょうどよい18名 物足りない9名

③5年度と6年度のやり方の変更について 今年度がいい9名 昨年度がいい8名 どちらでもいい等10名

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) アンケートの結果は、7年度の同好会発表会・作品展の参考とする。

- (2) クラス分けについては、健康増進教室は女性限定。男塾は男性限定。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

その他、東山区社会福祉協議会等の関係機関と連携し、高齢者支え合い活動入門講座や認知症サポーター養成講座等実施し、地域づくりを推進するとともに、東山区地域介護予防推進センターと連携し、健康増進教室等の介護予防事業の取組を推進した。高齢者にとって身近で気軽な相談窓口としての役割が果たせるよう心掛けた。また、高齢者自主活動支援事業として、東山区役所の「東山区民ふれあい作品展」に書道、絵手紙等の同好会が参加し、区民にセンターを知ってもらうきっかけになった。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市山科老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数7名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数149回、延参加者数4,949名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（37同好会、実施回数841回、延参加者数8,858名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数25名）
山科区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数25名）
- （4）教養講座（実施回数55回、延参加者数877名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流（実施回数1回、延参加者数22名）
共同事業（実施回数1回、延参加者数17名）
- （6）各種相談（相談件数2件）
- （7）一般娯楽（実施回数550回、延参加者数5,517名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋・卓球など）を実施
- （8）各種広報紙の発行（約750部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （9）その他
・山科消防署の協力による消防訓練（通報訓練、避難訓練、消火訓練）の実施
・実習生受入れ（近畿大学生）

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、契約職員1名

臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

22,440 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日, 閉所期間: 12月29日~1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況(単位: 円)

委託料	10,769,114
その他	63,670
収入計	10,832,784

イ 令和7年度支出状況(単位: 円)

人件費	8,455,961
事業費	2,579,959
委託費	118,360
小額修繕費	121,000
その他	
支出計	11,275,280

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 認知症サポーター養成講座
認知症について学ぶ機会や理解、受講後の感想などを次年度に活かすためアンケートを実施した。
【方法】参加者に対し、選択方式と記述方式で実施。
【設問数】4問
【回答数】15

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) 認知症サポーター養成講座アンケートの結果
①認知症を学ぶ機会: あった4、なかった10、未回答1
②受講後の認知症の理解: よく理解できた0、理解できた12、できなかった1、未回答2
③受講後の認知症のイメージ: 変わった11、変わらない2、未回答2
④受講後の自由記述
・認知症を少し身近に感じる事ができた。
・大変学ぶことが多くあり、もっと学ぶ時間が欲しかった。
・早めに病院受診や包括センターに相談したい

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は勤修地域包括支援センターと共有し、今後の認知症サポーター養成講座に活かす。

7 評価(指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、山科区地域介護予防推進センターなどと連携し「デュアルタスク体操」「かるがるトレーニング」等を毎月実施するとともに、「椅子に座ってするヨガ」「笑いヨガと脳トレリズム体操」を単発で実施した。また、教養講座は空き教室を利用し、健康や生活など多様な内容の講座（「LINEとスマホ決裁講座」「健康寿命を延ばす睡眠法講座」「エコクラフト講座」「アナログレコードの思い出を語る会」「交通安全運動講座」「国際電話停止手続き」等）を実施した。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市南老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

（1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）

（2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）

（3）消防設備定期点検

（4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

（1）職員資質向上のための研修

（2）老人福祉センター利用案内の作成

（3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化

（4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用

（5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数10名）

区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成

（2）介護予防（実施回数134回、延参加者数1,668名）

健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援

（3）高齢者自主活動支援

同好会活動の支援（27同好会、実施回数562回、延参加者数6,663名）

ボランティア活動への支援など（延参加者数78名）

南区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数210名）

（4）教養講座（実施回数33回、延参加者数307名）

生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応

（5）地域交流事業

多世代交流（実施回数3回、延参加者数113名）

共同事業（実施回数1回、延参加者数550名）

（6）各種相談（相談件数25件）

（7）一般娯楽（実施回数592回、延参加者数5,731名）

いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋・卓球など）を実施

（8）各種広報紙の発行（約850部/月）

施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知

（9）その他

・実習生受入れ（近畿高等看護専門学校3名）

・立命館大学4回生来所インタビューの受入

・チャレンジ就労体験受入（3名）

・京都市立開建高等学校 生活探求見学（4名）

・防災訓練AED講習会の実施

・京都市エコまちステーション拠点として資源ごみ回収ボックスの常設、臨時資源ごみ回収（年2回）

・園庭の開放（桜開花時期）

・LINEアカウントによる情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、契約職員1名

臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

17,210 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 292日, 閉所期間 : 12月29日～1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況 (単位: 円)

委託料	11,072,923
その他	229,710
収入計	11,302,633

イ 令和7年度支出状況 (単位: 円)

人件費	7,988,404
事業費	2,494,834
委託費	300,794
小額修繕費	39,490
その他	
支出計	10,823,522

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 第1回 健康寿命を延ばす睡眠法 受講後の感想、次回に活かすためのアンケートを実施。 【方法】参加者に対し、選択方式、記述方式で実施。 【設問数】4問 【回答数】24
(2) 健康講座 転倒予防 受講後の感想、次回に活かすため参加してみたいテーマのアンケートを実施。 【方法】参加者に対し選択方式と記述方式で実施。 【設問数】3問 【回答数】17
(3) 認知所サポーター養成講座 【方法】参加者に対し選択方式と記述方式で実施。 【設問数】4問 【回答数】8

(2) 利用者満足度把握の結果

—

(1) 教養講座 健康寿命を延ばす睡眠法 アンケート結果

①講座の内容：

良かった 18、まあまあ良かった 4、普通 2

具体的に：

- ・良い眠り方がわかった
- ・決めた起床時間に起きる努力をしたい。興味深く聴講できた
- ・自分に当てはまることがあった
- ・体の動かし方、睡眠の取り方、勉強になった。また講座開催希望。

②現在の睡眠や健康寿命についての悩み、聞いてみたいこと：

- ・眠れない時の対処法
- ・睡眠導入剤を使用しない方法。薬を使用すると午前中体が不調
- ・途中で起きると寝つきが悪い

③足つぼについて：

一度受けてみたい 20、 どちらとも言えない 2、無記入 2

④もし足つぼを受けるなら期待することは何？：

- ・効果が知りたい
- ・スッキリしたいが痛みが気になる
- ・満足できる睡眠

(2) 健康講座 転倒予防 アンケート結果

①内容の満足度：満足 16、 普通 1

②今後に活かせるか？：大いに役立つ 11、 役に立つ 6

③今後の講座で受けたいテーマ：

家庭内事故の対処法 5 痛み・しびれについて 11

脳卒中かなと思ったら 3 高齢者の食事について 7

がん予防の食生活 7

(3) 認知症サポーター養成講座 アンケート結果

①認知症を学ぶ機会： あった 5、なかった 2、無記入 1

②受講後の認知症の理解：よく理解できた 2、理解できた 4、無記入 2

③受講後の認知症のイメージ：大きく変わった 2、変わった 5、変わらない 1

④受講後の自由記述：

- ・言葉をかけていこうと思いました。
- ・認知症になっても楽しく生きることができる

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は睡眠指導士 荻 新一氏と共有し、今後の講座に活かす。

(2) アンケート結果は京都岡本記念病院と共有し、今後の講座に活かす。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、南区地域介護予防推進センターと連携した「さわやか体操」「はつらつ脳トレ」は人気で多くの参加者があった。一般娯楽事業としては、本年度新たにボッチャを導入し男女を問わず安全で親しみやすい娯楽を提供した。その他、更なる長寿化の進展を踏まえ、気軽に参加できる事業等を実施し、新規利用者の受入促進を図るとともに、認知症になっても安心して生活できる地域づくりの一助となるよう、認知症の正しい理解の普及啓発に努めた。

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市右京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- (1) 窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- (2) 施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- (3) 消防設備定期点検
- (4) 開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- (1) 職員資質向上のための研修
- (2) 老人福祉センター利用案内の作成
- (3) 施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- (4) 苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- (5) 安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- (1) 高齢者支え合い活動入門講座
未実施
※右京区社会福祉協議会での開催にあたり利用者へ周知・参加推奨した。
- (2) 介護予防（実施回数126回、延参加者数3,141名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- (3) 高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（10同好会、実施回数296回、延参加者数3,092名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数29名）
右京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数726名）
- (4) 教養講座（実施回数4回、延参加者数72名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- (5) 地域交流事業
多世代交流（実施回数0回、延参加者数0名）
- (6) 各種相談（相談件数0件）
- (7) 一般娯楽（実施回数1,153回、延参加者数9,415名）
いつでも誰でも参加できるつどい（健康麻雀、卓球など）を実施
- (8) 各種広報紙の発行（約410部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- (9) その他
・実習生受入れ（京都保健衛生専門学校4名）
・環境整備ボランティアによる環境整備を実施

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、契約職員1名

臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、500万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、500万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

17,036 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日, 閉所期間: 12月29日~1月3日)

(3) 収支実績

ア 令和7年度収入状況 (単位: 円)

委託料	10,653,876
その他	189,861
収入計	10,843,737

イ 令和7年度支出状況 (単位: 円)

人件費	7,895,168
事業費	2,865,906
委託費	243,760
小額修繕費	0
その他	
支出計	11,004,834

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。
 【方法】 事業参加者に対し、4段階評価で実施
 【設問数】 7問
 【回答数】 129件

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について
 1 「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
 たいへん満足36.4% 満足62.0% 不満1.6% たいへん不満0% 無回答0%
 2 「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
 たいへん満足35.7% 満足63.6% 不満0% たいへん不満0% 無回答0.8%
 3 「表情や態度は感じが良いですか」
 たいへん満足39.5% 満足59.7% 不満0.8% たいへん不満0% 無回答0%
 4 「言葉使いや説明は親切でていねいですか」
 たいへん満足40.3% 満足58.1% 不満0.8% たいへん不満0% 無回答0.8%
 5 「説明は的確で分かりやすいですか」
 たいへん満足30.2% 満足69.0% 不満0.8% たいへん不満0% 無回答0%
 6 「整理整頓は行き届いていますか」
 たいへん満足39.5% 満足60.5% 不満0% たいへん不満0% 無回答0%
 7 「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」
 たいへん満足38.8% 満足58.1% 不満0.8% たいへん不満0% 無回答2.3%

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。

7 評価 (指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、右京区地域介護予防推進センターと連携し、介護予防運動教室を月2回二部制で実施したほか、いきいき筋トレやロコモ体操教室、しっかり体操などを定期に実施するとともに、理学療法士による健康体操等を実施するなど、介護予防事業の充実を図った。高齢者自主活動支援事業では、「色えんぴつ画」が新たに同好会として発足、「フラダンス同好会」が一般娯楽事業のつどいと活動する形を変えた。また、地域の社会資源として宇多野社協や老人会等の学区各種団体との連携を図り、会場提供や備品貸出し等について協力した。